



銅像山通信 号外

浅野学園同窓会会報・号外

発行日：平成11年5月1日 発行人：浅野学園同窓会



— 経 歴 —

- ・昭和6年浅野総合中学卒業(第7期)。
- ・戦時中は、師団通信隊として応召。迫撃砲の破片で戦傷、その後マラリアに罹り、九死に一生を得て生還。
- ・昭和24年市立戸塚高校副校長を皮切りに、横浜商業、横浜工業、鶴見工業、等の高校の校長を歴任。
- ・昭和53年4月浅野中・高等学校長に就任。
- ・昭和61年5月勲四等瑞宝章受章。
- ・平成元年12月浅野中・高等学校長を退任。退職。
- ・その後、長い間空席となっていた同窓会長職を代行。
- ・平成5年正式に浅野学園同窓会長に就任。

石山同窓会長御逝去

昨年9月に脳梗塞で倒れられ、3ヵ月余の入院生活の後、自宅でご療養なさっていた浅野学園同窓会長で元(第4代)浅野中・高等学校長であられた石山延雄先生が、3月24日(水)、午後4時46分、肺炎のため緊急入院された小田原市の小林病院でお亡くなりになりました。享年85歳。通夜は27日(土)午後6時から、告別式は28日(日)午後1時から、共に、ご自宅近くの早川駅前“メモリアルホールきくや会館”で執り行なわれ、ご親族、ご友人、浅野学園学校関係者(先生・生徒・父母)、公立高校関係者、同窓会関係者、剣道部の後輩等、多くの方々が参列し、先生とお別れいたしました。



追悼文

石山先生の訃報に接して —痛恨の極み—

浅野学園同窓会副会長 石 崎 廣 矣

このたび、浅野学園同窓会長石山延雄先生の訃報(3月24日午後4時46分、肺炎による急逝)に接し、僭越ではありますが、同窓会員一同を代表して謹んで哀悼の意を表させていただくと共に、会員の皆様にお知らせ申し上げます。

石山先生は、学校長時代より学園の将来と同窓会の現状について深く憂慮され、同窓会長にご就任以来、会の活性化についてご腐心の末、自ら積極的に活性化委員会の設置を総会に発議されました。そして、やっと念願かなって新規約が成立、新組織による新たな活性化の歩みがまさに始まろうという直前に倒れられ、緊急入院なされました。(平成10年9月17日)

役員・幹事一同、石山先生のお考えに沿うよう、喜んでいただけるよう、そして一日も早くご回復の上、再びご指導いただけるよう、お祈り申し上げながら努力して参りましたが、願い通ぜず、誠に痛恨の極みです。

しかし、尊いご遺志は、会員の皆様の深いご理解とご支援をいただいて必ず貫き通す所存でございます。

石山延雄先生のご冥福を会員の皆様と共に祈り申し上げます。

追悼文

お別れの言葉

—感謝とともに—

浅野中・高等学校長 石橋 義 史

弥生は24日、終業式とそれに続く中学卒業式が果て、平成10年度もなんとか無事に終えることができたという感慨と、例年この日にやってくるある種の虚脱感とに溶け入りながら、私は近ちかお見舞いのご報告かたがた、石山先生のお宅にお邪魔しなくてはと思いつつ、帰路、立ち寄った居酒屋でつい杯を重ね過ぎてしまったことでした。

夜十時過ぎ、家人に叩き起こされて、先生の突然の訃報に接したとき、だから半覚醒の意識が、それを現実のものとして受け容れるまでには、暫らくの時が必要でした。

昭和53(1968)年4月1日、今から20年前のことになります。内外ともに多端な浅野学園に、新しい校長が乗りこんできました。そうです、乗りこんできた、というのが、少なくともそのとき私の抱いた率直な感想でした。戸塚高校、横浜商業高校の副校長を勤めあげ、横浜工業高校、鶴見工業高校の校長を歴任し、加えて神奈川県在校長会や高体連においても重責を担ってきたという石山延雄なる男は、職員会議の席上に、黒のダブルのスーツに身を鎧い、65歳とはとても思われぬ若々しくも精悍な姿で、颯爽と現れました。聞くとところによれば剣道七段、お宅の庭で、時に真剣を振るう、といった恐ろしげな噂も流れていたことでした。

以来、平成元年12月までの十余年、先生は持ちまへの行動力と実行力で、様々な学内改革をなし遂げられました。形あるものとしては、格技場、テニスコート、中学棟、石庭、多目的コート等の新設、建造が思い浮かびます。

しかし今、残された私どもが受け継がなければならないのは、懸かって次の一点、即ち先生の学園に対する限りない愛の眼差し以外にはありません。いかに周辺からの強い要請があったとは言え、ご退職後の悠々自適の日々から腰をあげて、同窓会の会長を引き受けられたのも、母校(ちなみに先生は昭和6年3月卒の7期生であります)をより高い存在に引き上げようがための熱い思いに他なりませんでした。

私ごとと互って恐縮ですが、思い起こせば、折に触れて様々な薫陶を賜って参りました。そうしてその間、先生の〈強さ〉の裏に潜む純朴なお人柄にも、親しく接することができました。……天婦羅や鰻を好む健啖家、四十代で酒

を断つに至った経緯、北支(だったか)での戦闘中に、炸裂した至近弾の破片が大腿部に突き刺さったその後遺症、奥様のヴォランティア活動にまつわるエピソード等は、問わず語りに知り得たことどもでありました。

あれは何年前だったのでしょうか、小田原は入生田の長興山に杖を引かれた折のことでした。山懐深くに、ひっそりと、しかし華麗に咲き誇る見事な枝垂桜がありました。花冷えのなか、茶店の縁先に陣取り、先生はおでん、私は熱燗を所望しました。程なくしてほろ酔いの愚生の耳に、前後の脈絡なしに、ふと、先生は呟かれたのでした、「願はくは花の下にて春死なむ、だねえ」と。むろん、西行の絶唱であります。

石山延雄先生、お別れです。一期、行年八十有五歳。先生、本当に有難うございました。どうか安らかにお眠り下さい。

(3月25日深更)

追悼文

ご指導ありがとうございました

浅野学園同窓会副会長 岡 本 順太郎

浅野学園同窓会会長石山延雄先生の急逝の報に接し、深い悲しみを懷き、遺憾の念に堪えません。

先生は、同窓会長にご就任以来、浅野学園のさらなる繁栄と同窓会の充実を図り、同窓生の心豊かな人生の支援を目標に、会の活性化——新たな組織を構成して活発な事業展開が実施できる体制を整えることを常に念頭に置かれ、我々を導き続けてくださいました。お陰様で、本年度に入り、新たな組織が構成され、新規事業に具体的に取り組むことのできる体制が整いました。

昨年、先生は病魔におそわれ、闘病生活を送られていましたが、役員会・幹事会の都度、先生が少しずつお元気になられているのご報告を伺い、徐々に快復に向かわれ、近々には会合にお元気な姿でお越しいただけると思っておりましたのに、残念でなりません。

先生のご冥福をお祈り申し上げますと共に、ご生前のご指導に対し深甚なる感謝を捧げます。

